

糖尿病治療薬のお話

(監修) 川崎幸クリニック 糖尿病外来 安島 美保
川崎幸クリニック 糖尿病外来 森上 善史

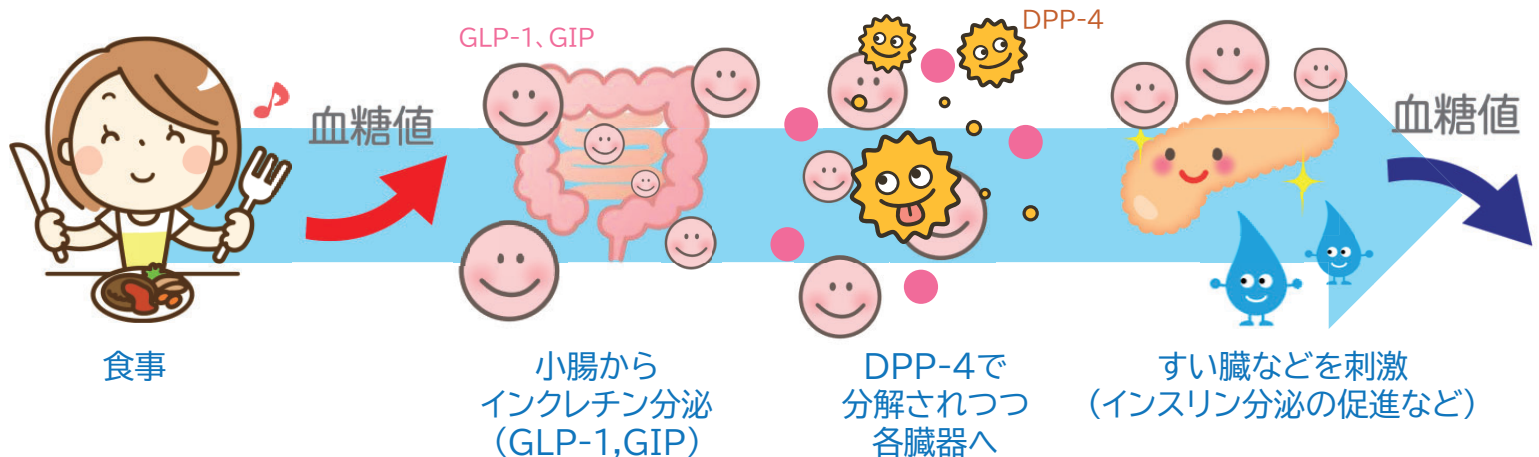
インクレチン製剤って知っていますか？

インクレチン製剤は、消化管に存在し、すい臓などを刺激するインクレチンという体内のホルモンの働きを助けるお薬です。

2009年から2010年にかけて日本でも製造・販売が開始されたお薬で、欧州や米国ではインクレチン製剤がいち早く臨床使用され、現在では数種類が市販されています。日本では、シタグリプチン「グラクティブ®」「ジャヌビア®」(DPP-4阻害薬)、ビルダグリプチン「エクア®」(DPP-4阻害薬)やデュラグルチド「トルリシティ®」(GLP-1アナログ)などがあります。

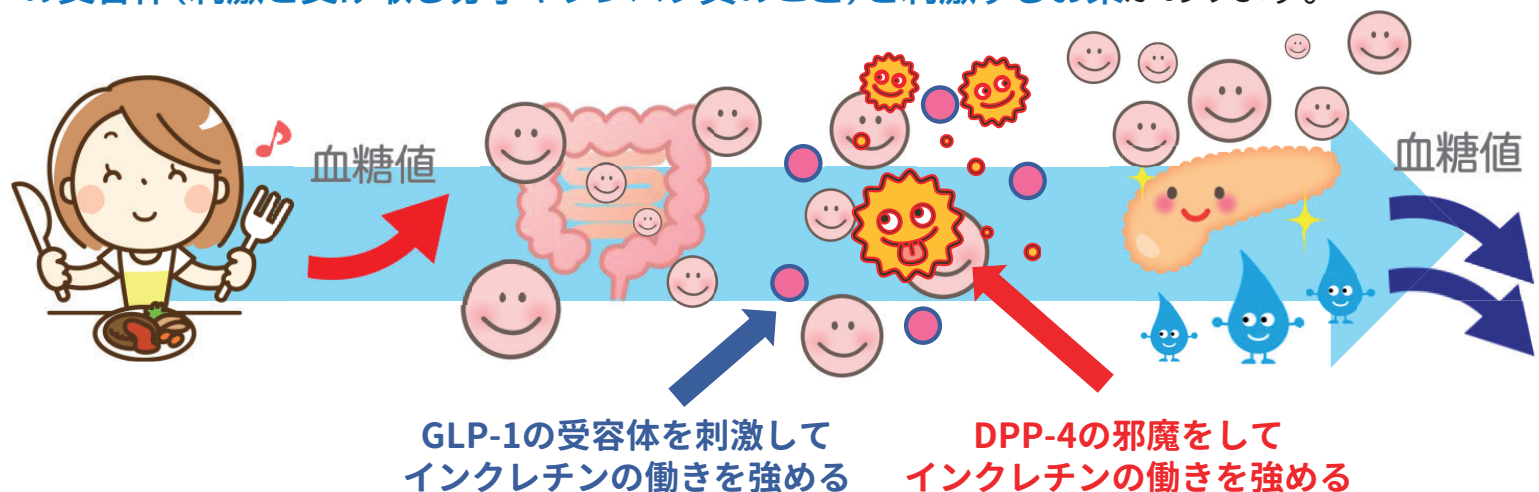
インクレチンって何？

インクレチンは食事をすると、小腸から血中へと分泌され、血糖値が上昇しているときに、インスリン分泌の促進やグルカゴン分泌を抑制します。GLP-1とGIPの2種類が知られています。しかし、分泌されたGLP-1もGIPもDPP-4(ジペプチドペプチターゼ-4)という分解酵素ですぐに分解されてしまいます。



インクレチンの働きを強めると？

インクレチンの働きを強めるため、インクレチンの分解を遅らせるお薬とインクレチンのGLP-1の受容体(刺激を受け取る分子やタンパク質のこと)を刺激するお薬があります。





インクレチンの分解を遅らせるお薬

インクレチンの分解を遅らせるお薬: DPP-4阻害薬 

毎日内服	ジャヌビア®、グラクティブ®、エクア®、オングリザ®、テネリア® トランゼンタ®、ネシーナ®
週1回内服	マリゼブ®、ザファテック®



インクレチンのGLP-1の受容体を刺激するお薬

インクレチンのGLP-1の受容体を刺激するお薬: GLP-1受容体作動薬 

経口薬	リベルサス®	
皮下注射	毎日1回皮下注射	ビクトーザ®、リクスミア®
	週1回皮下注射	トルリシティ®、オゼンピック®



インクレチン製剤の特徴って？

インクレチン製剤の特徴は、**血糖値が高くなる時にだけインスリン分泌を刺激するため、単独使用では低血糖が生じない**ことです。ただし、SU薬など低血糖を生じるお薬と併用する際には低血糖が起こるため、注意が必要です。インスリン分泌の残っている2型糖尿病に使用されます。



DPP-4阻害薬は副作用が少ないため、高齢の方や合併症がある方などを含めて広く使われています。DPP-4阻害薬はインスリン分泌を促すインクレチンを分解するDPP-4という酵素の働きを抑える作用があります。インクレチンが多く分泌されるのは食後のため、このお薬は食後に作用を発揮することが多く、主に食後の高血糖を改善する効果が期待されます。

GLP-1受容体作動薬は、副作用として嘔気、便秘、下痢、食欲低下などを生じることがありますが、食欲を抑えるため体重減少や動脈硬化抑制作用も期待できます。

また、最近発売されたリベルサス®は、**世界初の経口のGLP-1受容体作動薬**です。朝空腹時に120ml以下の水で内服し、30分は他のものを口にできないという制約はありますが、注射が苦手な方にはうれしいお薬です。

しかし、GLP-1受容体作動薬はDPP-4阻害薬よりも費用が高額になってしまいます。



治療薬の選択は病態や年齢、罹病期間、臓器障害の程度、これまでの治療やサポート環境を考慮して選択します。気になることがあれば、まずは医師に相談してみましょう！